

景気見通し調査 結果レポート

令和6年12月期

特別調査【コスト上昇に対する価格転嫁などの現状】

福井商工会議所 中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所を中心とした短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期：令和6年11月25日(月)～12月6日(金)

調査方法：FAXによる送付・回収及びGoogleフォームによる回答

調査対象：福井商工会議所の会員 小規模事業所を中心に2,013件を抽出

(製造業・建設業・その他・・・従業員20人以下の事業所

卸売業・小売業・サービス業・・・従業員5人以下の事業所)

回答数：404件 (回答率20.1%)

従業員数	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
5名以内	28	60	35	37	62	222(55.0%)
6～10名以内	32	18	4	11	13	78(19.3%)
11名以上	38	23	5	18	20	104(25.7%)
小計	98(24.3%)	101(25.0%)	44(10.9%)	66(16.3%)	95(23.5%)	404(100.0%)

D I 値とは…ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする企業割合から、「悪い」「下落した」とする企業割合を差し引いた値。「現在」D I 値は3ヵ月前を基準とした現在の状況、「先行」D I 値は今後3ヵ月後の状況を予測したもの。

【調査結果の概要】

景況は2期連続で改善するも、物価高や節約志向などで先行きは予断を許さず

①業界の景況

2期連続で改善。製造業、建設業で改善の幅大きく。

②自社の景況

わずかながら改善。小売業で悪化が顕著。

③売上高(受注高)

製造業、建設業で大幅に改善。一部では新幹線開業効果による売上増の声も。

④販売価格

小幅ながら下降。価格上昇は落ち着く見通し。

⑤仕入価格

3期ぶりに改善。先行きも改善見通しも高止まりが続く。

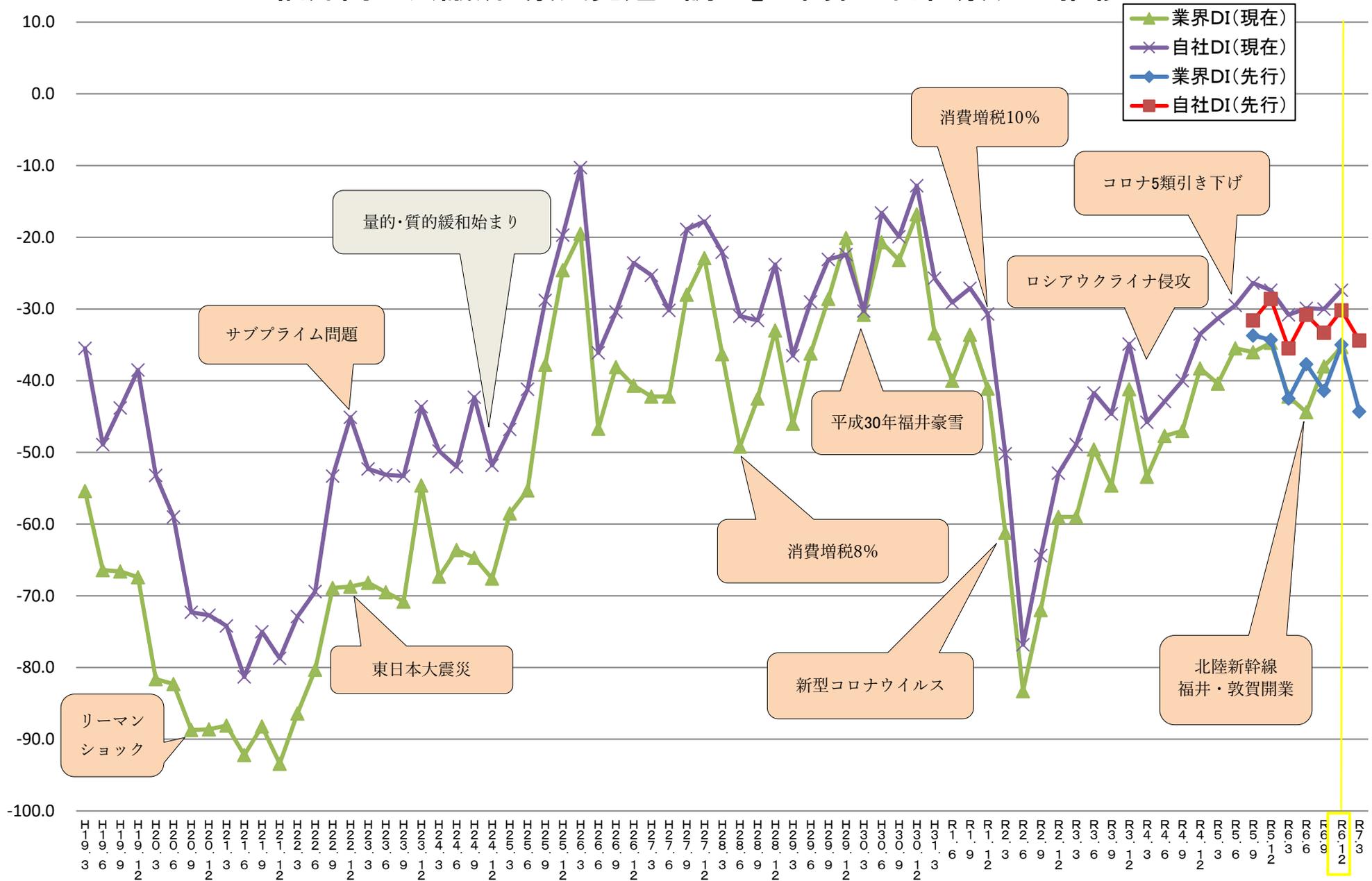
⑥採算(収支)

3期連続で改善するも、先行きは悪化の見通し。

【特別調査「コスト上昇に対する価格転嫁などの現状」の概要】

- コスト上昇分の販売価格への転嫁の割合は、「少しはできている」（転嫁の割合が1割未満から3割未満）が44.7%と最多で、依然として低い水準にとどまった。
- コスト上昇分に対する販売価格への転嫁度合いを示す「価格転嫁率」は36.4%。約1年前の調査で30.7%だったことから、価格転嫁はわずかながら進んでいるものの、低水準となった。
- 昨年の同時期と比較した価格転嫁率は、「横ばい」が63.6%と半数をしめ、「拡大」は22.3%にとどまった。
- 価格転嫁ができた要因は、「取引先（顧客）への価格改定の通知」が50.5%と最も多く、次いで「業界全体における理解の進展」が49.8%、「コストに影響しそうな情報を共有」が38.4%、「採算ラインを示した価格交渉」が35.6%と続いた。
- 価格転嫁の支障になるものは、「他社との価格競争や値上げによる買い控えに関する懸念」が49.0%で最多となり、取引企業や消費者から選択されなくなることを危惧している事業所が多いことがわかった。

福井商工会議所「景気見通し調査」 業界／自社景況DI推移

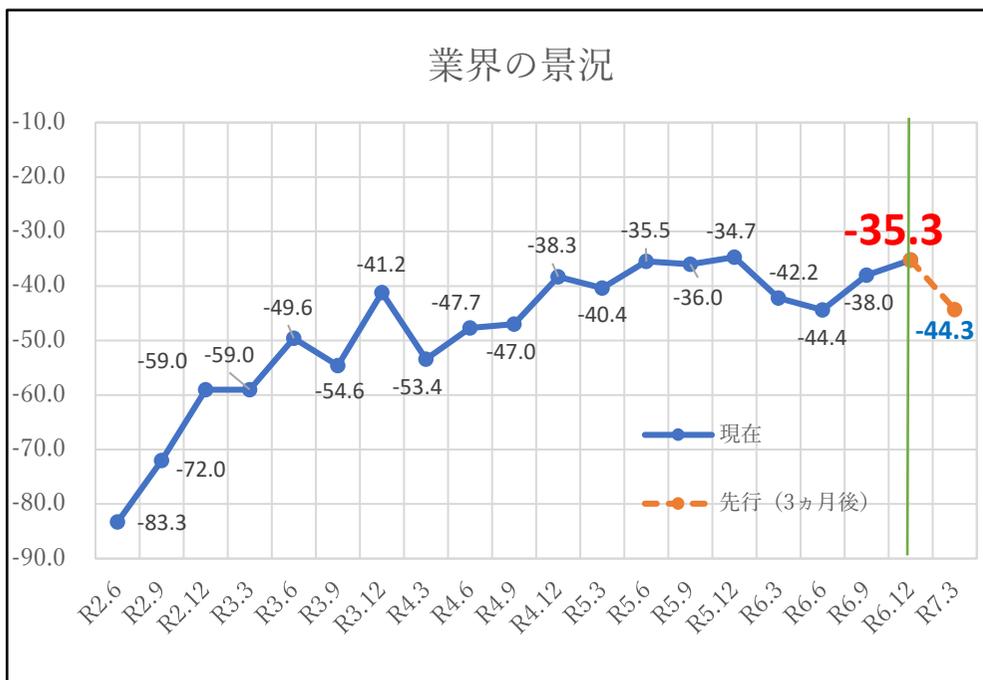


①—業界の景況—

【2期連続で改善、製造業、建設業で改善の幅大きく】

業界全体の現在DI値は、▲35.3 (+2.7ポイント)と2期連続で改善した。一方、先行DI値は▲44.3 (-9.0ポイント)と悪化する見通しで、インフレの進行や最低賃金の引き上げ、家計の節約志向など先行きの不確実性に対する懸念も窺われた。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲35.4 (+17.8ポイント)、建設業で▲18.0 (+12.9ポイント)と改善した。観光客向けの飲食店に販売している製粉業の事業所からは「新幹線での来県だけではなく、金沢からレンタカーで来たり、関西から自家用車で訪れたりする観光客も多く、観光地付近の飲食店は賑わっている」といった回答があった。一方、先行DI値は建設業で▲36.0 (-18.0ポイント)と大きく悪化し、日本海側特有の冬期の天候不順や降雪による影響もあると推察される。



① 業界の景況	2024年10~12月 (今期)		2025年1~3月 (見通し)	
	現在DI値	変化幅 (R6.12-R6.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-35.3	2.7	-44.3	-9.0
製造業	-35.4	17.8	-44.2	-8.8
建設業	-18.0	12.9	-36.0	-18.0
小売業	-63.6	-9.8	-63.6	0.0
卸売業	-62.1	-9.6	-68.2	-6.1
サービス業	-21.3	-2.9	-26.7	-5.4

②—自社の景況—

【わずかに改善、小売業で悪化の幅大きく】

自社の景況は、現在DI値が▲27.4 (+2.6ポイント)とわずかながら改善に転じたが、先行DI値は▲34.4 (-7.0ポイント)と悪化し、改善が持続するかについては懐疑的な傾向が見られた。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲20.4 (+12.5ポイント)、建設業で▲12.0 (+7.1ポイント)と改善した一方、小売業は現在DI値が▲59.1 (-16.8ポイント)と大幅に悪化した。玩具・娯楽用品小売の事業所からは「例年通りだと注文のある商品が今年は注文がなく、物価高による買い控えが続いている」といった個人消費の低迷による景況感悪化の声が聞かれた。



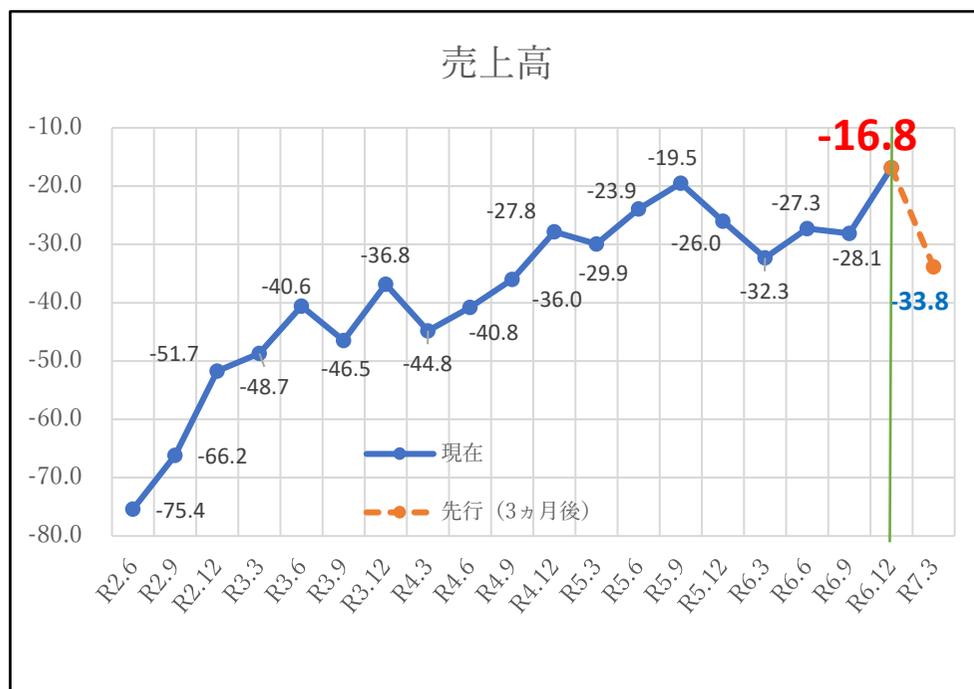
② 自社の景況	2024年10~12月 (今期)		2025年1~3月 (見通し)	
	現在DI値	変化幅 (R6.12-R6.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-27.4	2.6	-34.4	-7.0
製造業	-20.4	12.5	-29.9	-9.5
建設業	-12.0	7.1	-28.3	-16.3
小売業	-59.1	-16.8	-48.8	10.3
卸売業	-50.0	4.1	-53.0	-3.0
サービス業	-20.4	-2.0	-25.8	-5.4

③一売上高（受注高）

【製造業、建設業で大幅に改善、一部で新幹線開業効果継続の声も】

売上高（受注高）の現在DI値は、▲16.8（+11.3ポイント）と大幅に改善した。一方、先行DI値は▲33.8（-17.0ポイント）と下降し、先行きは悪化に転じる見通しとなった。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲13.3（+24.7ポイント）、建設業で▲1.0（+19.4ポイント）と大幅に改善した。菓子製造の事業所からは「新幹線開業を機に福井駅や敦賀駅での土産物購入が増加している影響で、昨年比べて受注数が2割増となっており、開業効果を感じている」という声が聞かれ、新幹線効果が持続している業界もあることがわかった。



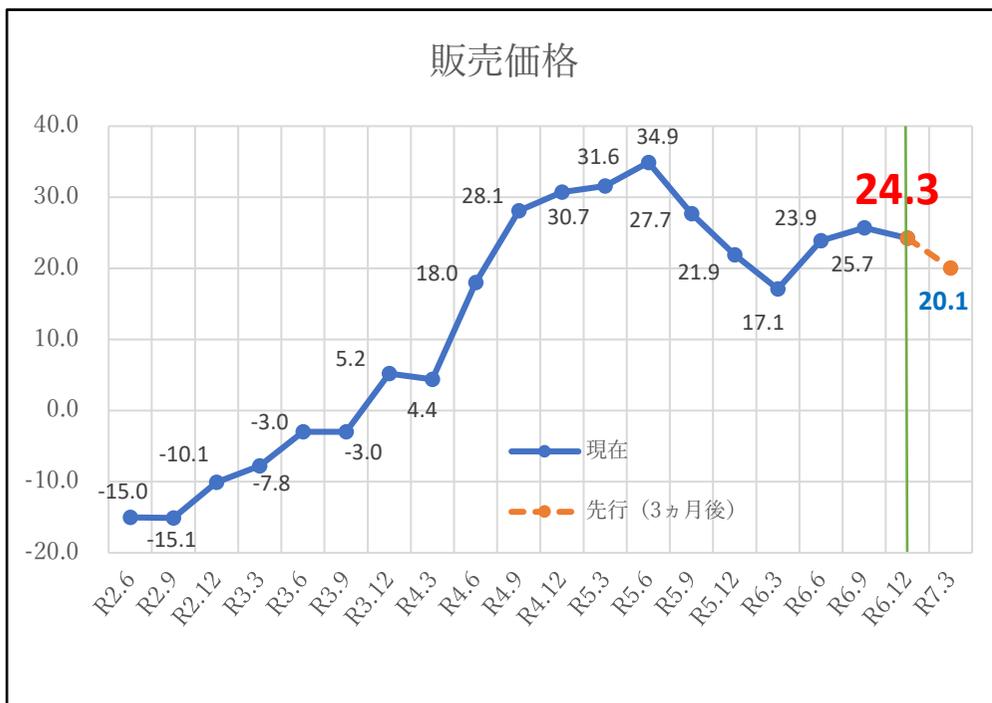
③ 売上高	2024年10~12月（今期）		2025年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R6.12-R6.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-16.8	11.3	-33.8	-17.0
製造業	-13.3	24.7	-26.0	-12.7
建設業	-1.0	19.4	-27.0	-26.0
小売業	-43.2	-10.5	-43.2	0.0
卸売業	-39.4	4.9	-56.1	-16.7
サービス業	-9.5	7.2	-29.0	-19.5

④—販売価格—

【小幅ながら下降、サービス業は4期連続で上昇】

販売価格の現在DI値は、24.3（-1.4ポイント）と小幅ではあるが下降した。また、先行DI値は20.1（-4.2ポイント）とさらに下降し、販売価格上昇は落ち着く傾向が見られた。

業種別にみると、サービス業が23.7（+5.8ポイント）と4期連続で上昇した。サービス業のうち飲食業で上昇の幅が大きく、事業所からは「新たにメニューを追加しながら値上げを行い、顧客が感じる負のイメージを少しでも減らす取り組みをしている」といった声も聞かれ、試行錯誤しながら価格転嫁を進めている様子が窺えた。



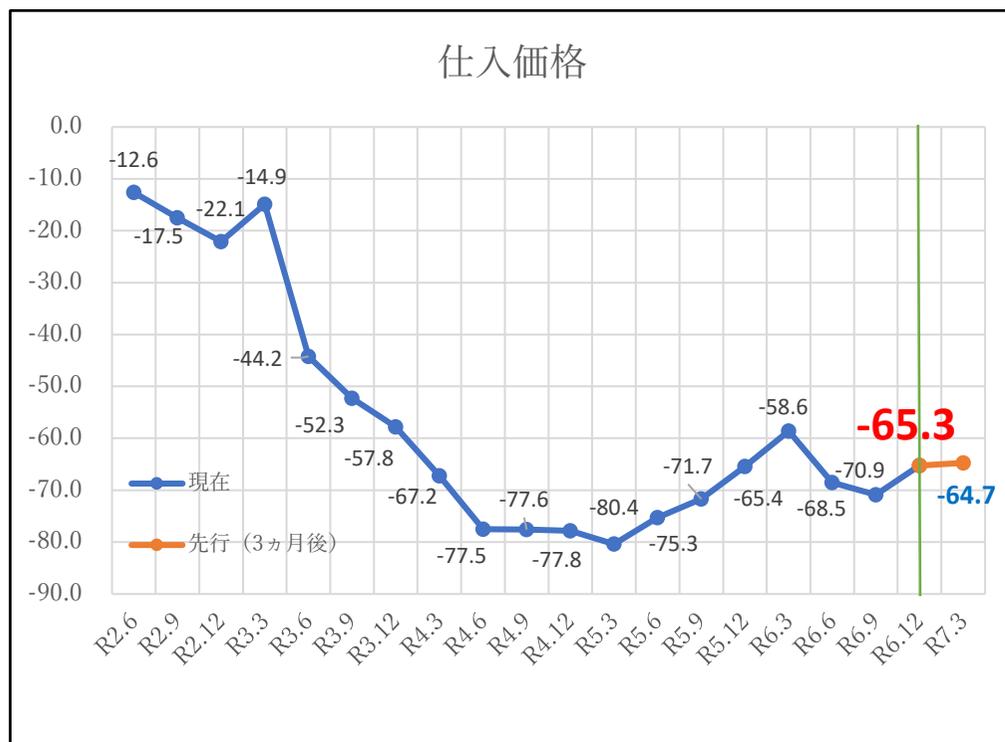
④販売価格	2024年10~12月（今期）		2025年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R6.12-R6.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	24.3	-1.4	20.1	-4.2
製造業	18.4	4.5	11.5	-6.9
建設業	18.2	-7.6	14.3	-3.9
小売業	40.9	-1.4	44.2	3.3
卸売業	31.8	-9.2	24.2	-7.6
サービス業	23.7	5.8	20.9	-2.8

⑤—仕入価格—

【3期ぶりに改善、製造業、建設業で大幅に改善】

仕入価格の現在DI値は、▲65.3 (+5.6ポイント)と3期ぶりに改善（仕入価格が下降）した。また、先行DI値は▲64.7 (+0.6ポイント)と、ほぼ横ばいで、今後も仕入価格の高止まりは続く見通しとなった。

業種別にみると、現在DI値は建設業で▲59.4 (+17.2ポイント)、製造業で▲61.2 (+11.9ポイント)と大幅に改善（仕入価格が下降）した一方、小売業で▲72.7 (-5.4ポイント)、サービス業で▲66.0 (-3.3ポイント)と悪化（仕入価格が上昇）し、業種間で差が見られた。尚、仕入価格の高止まりが続き、経営に影響しているとの回答も見られ、引き続き動向を注視していく必要がある。



⑤仕入価格	2024年10~12月（今期）		2025年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R6.12-R6.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-65.3	5.6	-64.7	0.6
製造業	-61.2	11.9	-61.9	-0.7
建設業	-59.4	17.2	-61.6	-2.2
小売業	-72.7	-5.4	-67.4	5.3
卸売業	-74.2	2.8	-74.2	0.0
サービス業	-66.0	-3.3	-63.0	3.0

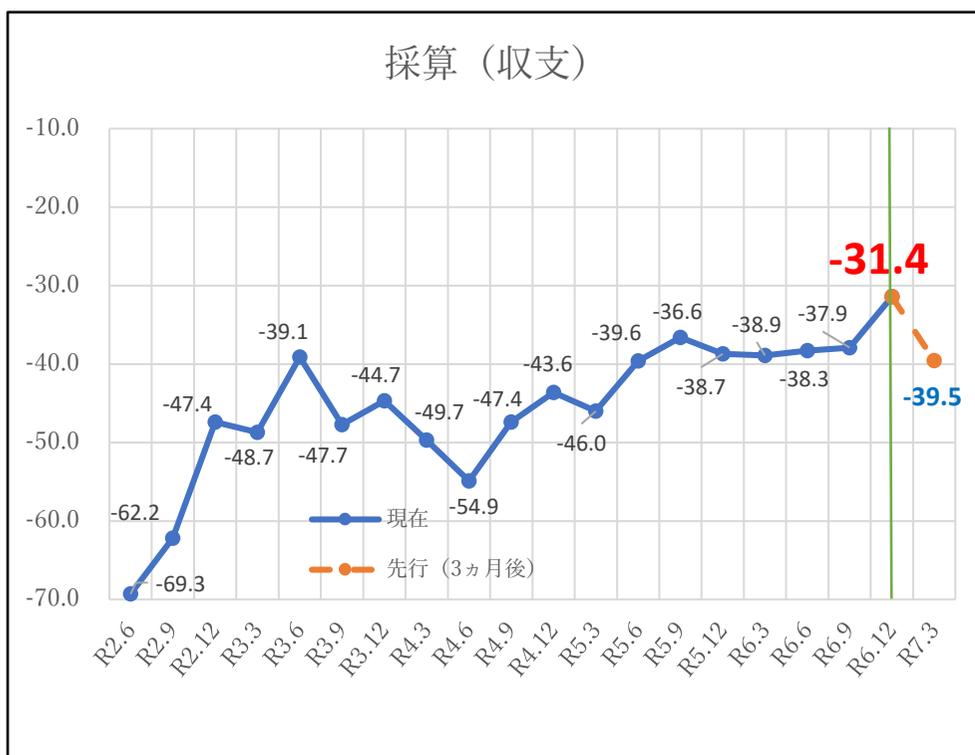
※仕入価格のDI値は上昇すると仕入価格が減少（改善）、下降すると仕入価格が増加（悪化）していることを意味する。

⑥—採算（収支）—

【3期連続で改善】

採算（収支）状況を表す現在DI値は、▲31.4（+6.5ポイント）と3期連続で改善したが、先行DI値は▲39.5（-8.1ポイント）と悪化する見通しとなった。

業種別にみると、現在DI値は建設業で▲25.0（+9.0ポイント）、製造業で▲26.5（+10.2ポイント）、卸売業で▲39.4（+8.1ポイント）、サービス業で▲25.8（+6.3ポイント）と小売業以外の全ての業種で改善した。小売業は現在DI値が▲56.8（-8.7ポイント）と悪化し、織物小売・卸売の事業所からは「昨年比で受注が落ち込んでいるため、新商品の開発を行っている。ただ開発には時間がかかっており、採算の悪化が見込まれる」といった不安の声が聞かれた。



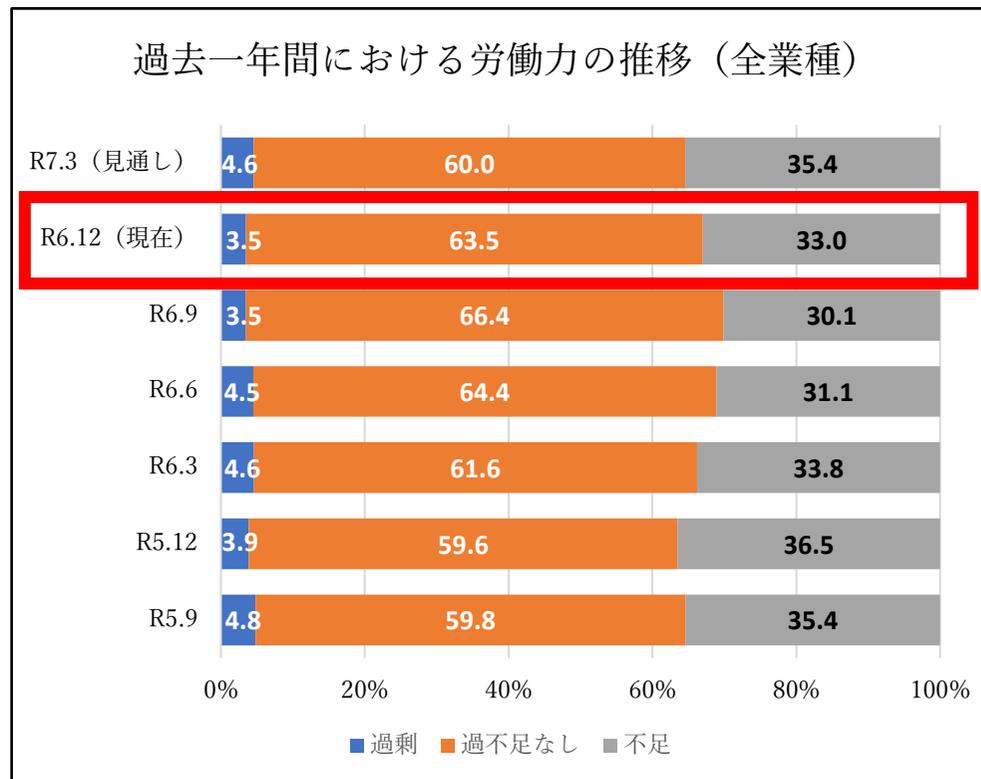
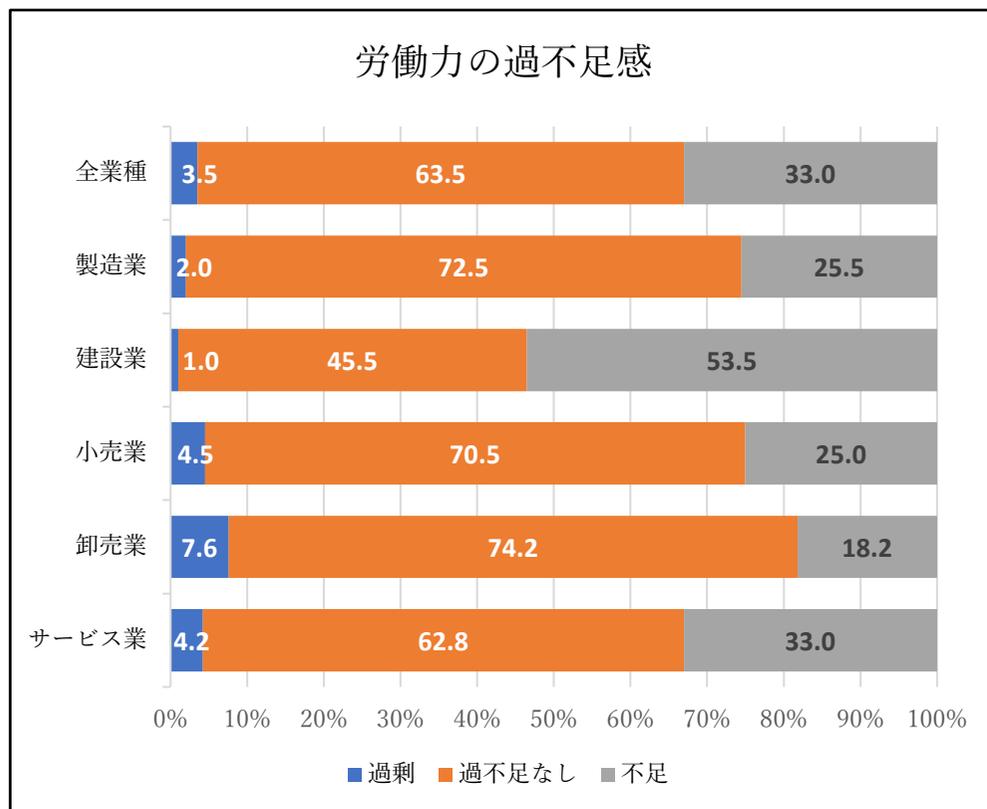
⑥採算	2024年10~12月（今期）		2025年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R6.12-R6.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-31.4	6.5	-39.5	-8.1
製造業	-26.5	10.2	-34.0	-7.5
建設業	-25.0	9.0	-36.0	-11.0
小売業	-56.8	-8.7	-46.5	10.3
卸売業	-39.4	8.1	-55.4	-16.0
サービス業	-25.8	6.3	-35.8	-9.0

⑦—労働力—

【4期ぶりに「不足」が増加】

労働力については、「不足」が33.0% (+2.9ポイント)と4期ぶりに増加に転じた。また、3ヶ月後も35.4% (+2.4ポイント)と不足感が強まる見通しとなった。

業種別にみると、建設業は「不足」が53.5% (前回40.9%)と12.6ポイント増加し、後述する⑩経営課題(内的要因)においても「人材確保・育成」を課題に挙げる事業所が前回と比べ増加しており、不足感が強まる結果となった。しかし、卸売業は「過不足なし」が72.7% (前回65.6%)と7.1ポイント減少し、業種によって差が見られた。

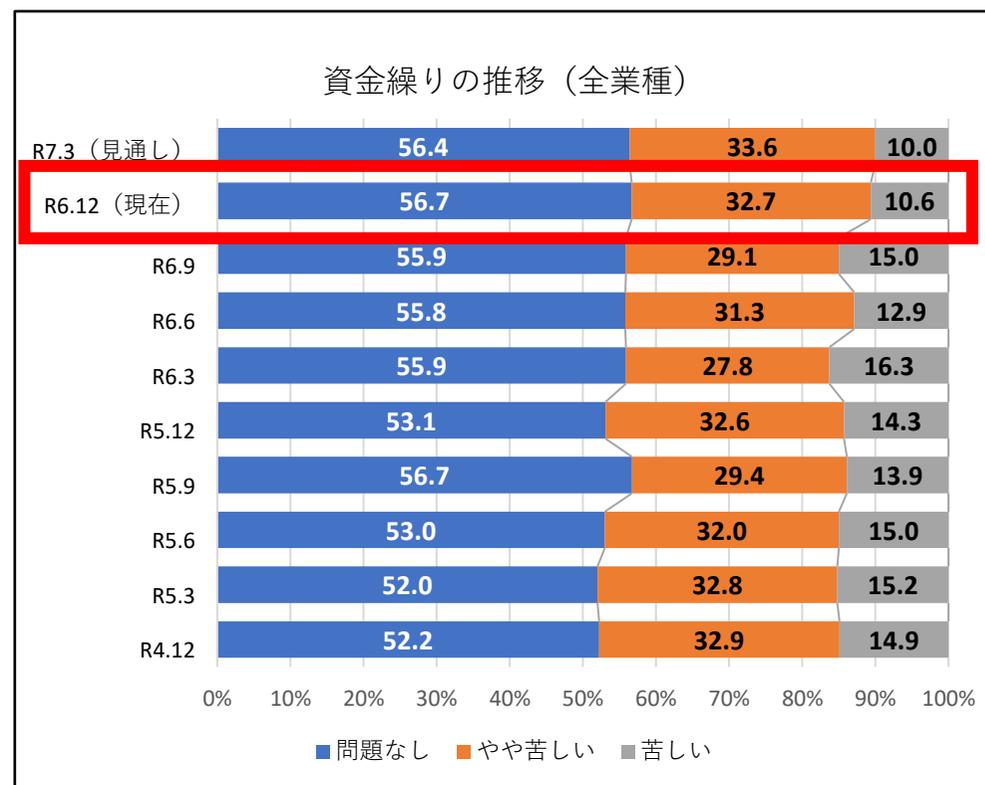
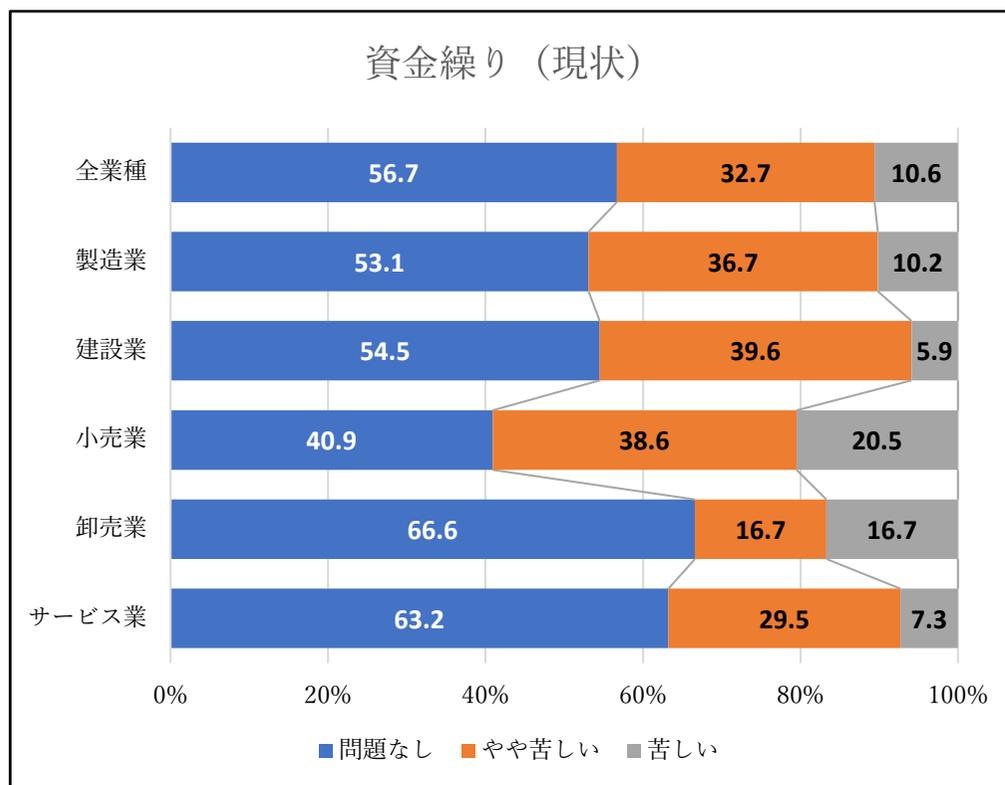


⑧—資金繰り—

【「問題なし」が10期連続で半数を超える】

現在の資金繰りの状況は、「問題なし」が56.7% (+0.8ポイント)と10期連続で半数を超え、景況感と同様に資金繰りにも改善傾向が見られた。一方で、「やや苦しい」も32.9% (+3.6ポイント)と増加した。また、3ヶ月後の見通しは「問題なし」が56.4% (-0.3ポイント)と減少し、「やや苦しい」が33.6% (+0.9ポイント)と増加した。

業種別にみると、「やや苦しい」は建設業で39.6% (+14.1ポイント)と大幅に増加した。建設業は冬季の天候不順や降雪による影響が大きく、今後の動向について注視する必要があると推察された。

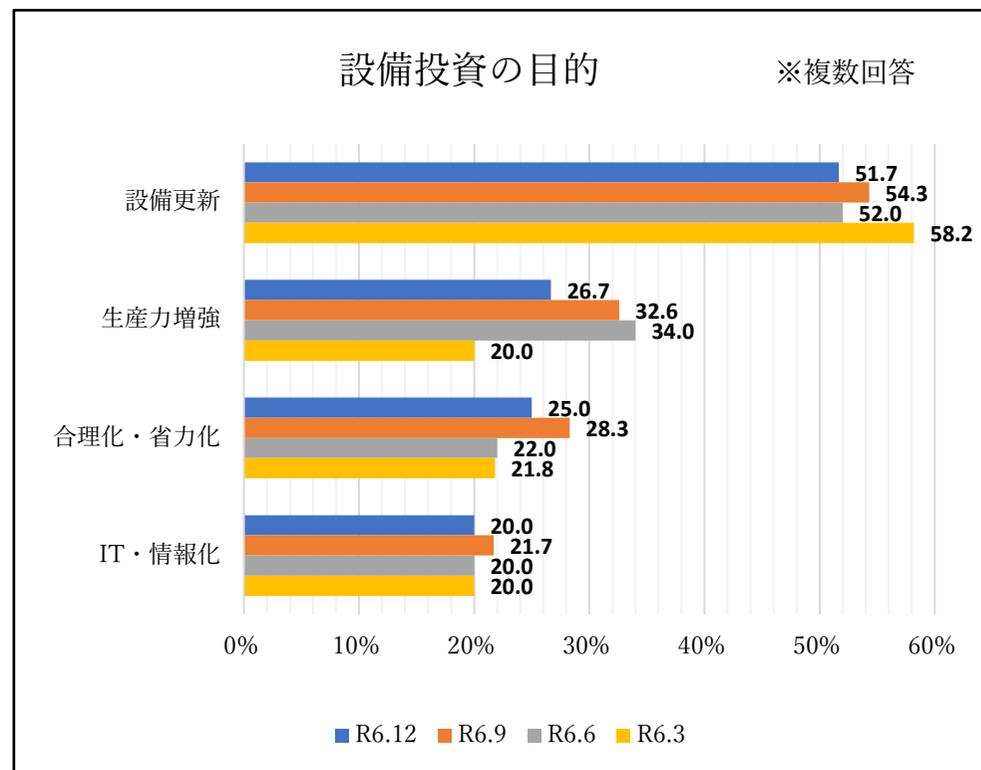
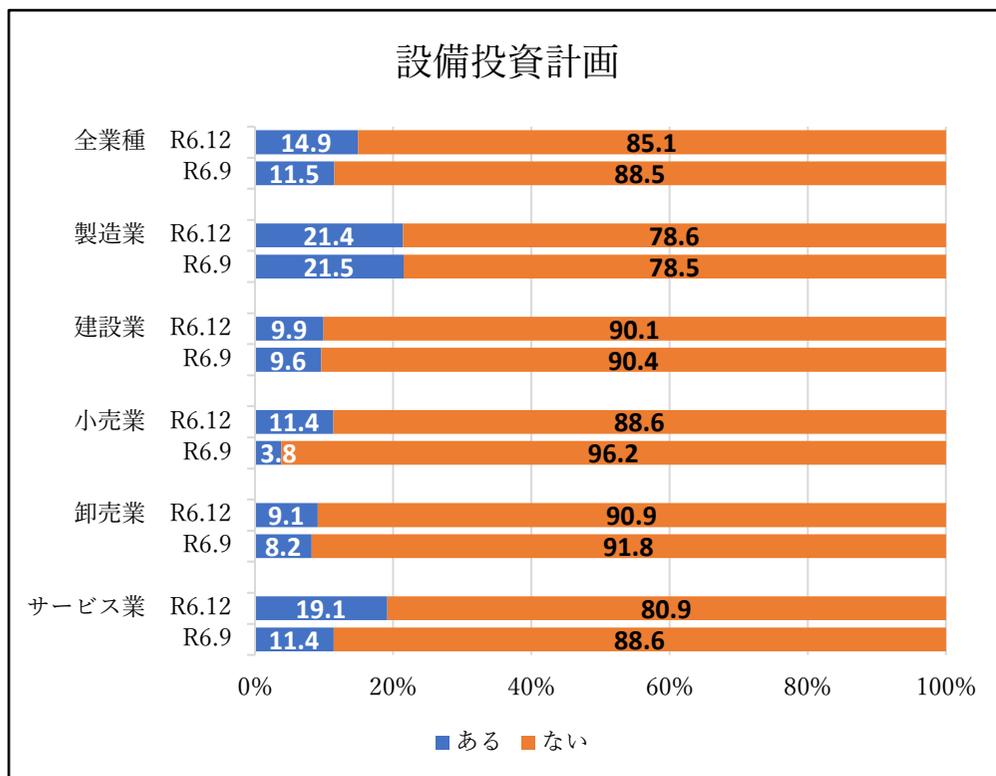


⑨—設備投資—

【「計画なし」が依然として8割超え】

今後3か月以内の設備投資計画は、「投資計画あり」が14.9% (+3.4ポイント)、「投資計画なし」は85.1% (-3.4ポイント)と依然として8割を超える結果となった。

業種別にみると、サービス業は「投資計画あり」が19.1% (+7.7ポイント)と大幅に増加し、その投資内容は「設備の更新」を挙げる回答が最も多かった。尚、「投資計画あり」と回答した事業所の投資内容では、「設備更新」が51.7% (-2.6ポイント)と最も多く、次に「生産力増強」で26.7% (-5.9ポイント)、「合理化・省力化」は25.0% (-3.3ポイント)と続き、前回調査から投資内容に変化は見られなかった。

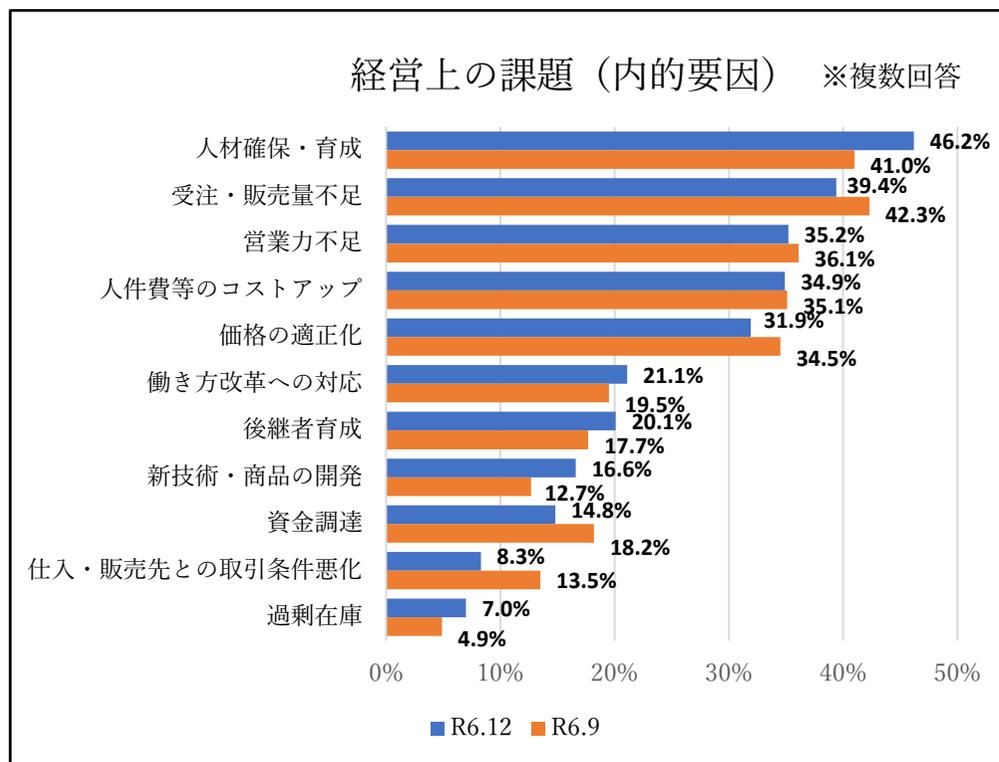


⑩—経営課題（内的要因）—

【「人材確保・育成」が3期ぶりに最多】

内的要因における経営上の課題は、「人材確保・育成」を挙げる回答が46.2%（+5.2ポイント）と3期ぶりに最多となった。次いで「受注・販売量不足」が39.4%（-2.9ポイント）、「価格の適正化」が35.2%（-0.9ポイント）と続いた。

業種別にみると、「人材確保・育成」は建設業で69.4%（+13.8ポイント）、製造業で46.9%（+4.0ポイント）、サービス業で50.0%（+0.5ポイント）と課題として最も多く挙げられた。また、「受注・販売量不足」は小売業で59.1%（+5.7ポイント）、卸売業で63.6%（+2.6ポイント）と最多で、業種間で差が見られた。



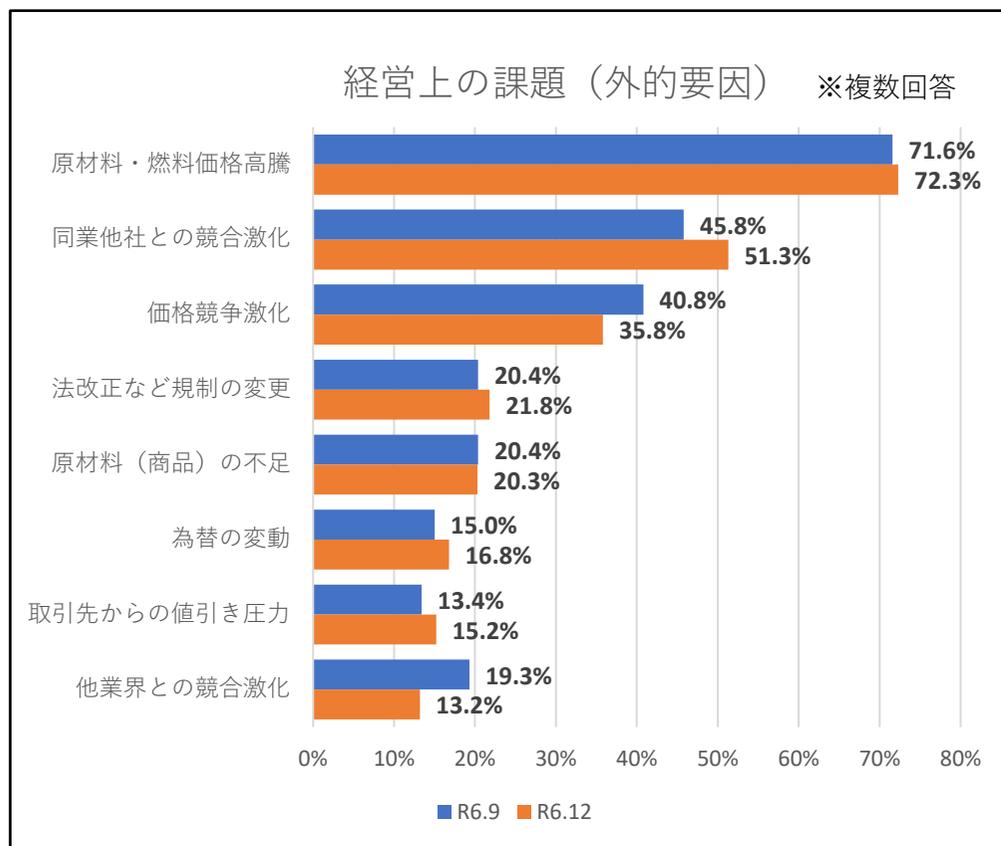
		人材確保・育成	受注・販売量不足	営業力不足	人件費等のコストアップ	
業種別経営課題 (内的要因) 【複数回答】	全業種	R6.12	46.2%	39.4%	35.2%	34.9%
		R6.9	41.0%	42.3%	36.1%	35.1%
	製造業	R6.12	46.9%	38.8%	31.6%	42.9%
		R6.9	42.9%	53.2%	37.7%	39.0%
	建設業	R6.12	69.4%	25.5%	27.6%	33.7%
		R6.9	55.6%	33.3%	36.7%	34.4%
	小売業	R6.12	22.7%	59.1%	47.7%	20.5%
		R6.9	34.5%	53.4%	25.9%	29.3%
	卸売業	R6.12	21.2%	63.6%	37.9%	33.3%
		R6.9	22.0%	61.0%	42.4%	23.7%
	サービス業	R6.12	50.0%	28.3%	39.1%	35.9%
		R6.9	49.5%	31.4%	32.4%	28.6%

⑪—経営課題（外的要因）—

【「原材料・燃料価格高騰」が13期連続で最多】

外的要因における経営上の課題は、「原材料・燃料価格高騰」が72.9%（+1.3ポイント）と13期連続で最多となり、次いで「同業他社との競争激化」が51.9%（+6.1ポイント）、「価格競争激化」が35.9%（-4.9ポイント）と続いた。

業種別にみると、「原材料・燃料価格高騰」は全業種で最も多く挙げられ、特に製造業で85.6%（-2.2ポイント）、卸売業で78.8%（+5.9ポイント）、建設業で77.6%（+3.5ポイント）と回答割合が高く、ほとんどの事業所で課題として挙げられる結果となった。尚、「その他」の回答では、「顧客層の高齢化」を課題として挙げる回答も見受けられた。



		原材料・燃料価格高騰	同業他社との競争激化	価格競争激化	法改正など規制の変更	
業種別経営課題 (外的要因) 【複数回答】	全業種	R6.12	72.3%	51.3%	35.8%	21.8%
		R6.9	71.6%	45.8%	40.8%	20.4%
	製造業	R6.12	85.4%	49.0%	40.6%	16.7%
		R6.9	87.8%	44.6%	41.9%	18.9%
	建設業	R6.12	76.5%	55.1%	34.7%	28.6%
		R6.9	74.1%	55.3%	43.5%	24.7%
	小売業	R6.12	53.5%	51.2%	32.6%	11.6%
		R6.9	58.8%	39.2%	39.2%	9.8%
	卸売業	R6.12	77.3%	42.4%	34.8%	9.1%
		R6.9	72.9%	33.9%	33.9%	8.5%
	サービス業	R6.12	59.3%	56.0%	34.1%	34.1%
		R6.9	63.5%	49.0%	38.5%	29.8%

参考：回答者の声

- 一時期の新築の着工件数の落ち込みは回復した。(建築板金) ➡
- 新幹線での来県だけではなく、金沢からレンタカーで来たり、関西から自家用車で来たりする観光客も多く、観光地付近の飲食店は賑わっている。(精穀・製粉) ➡
- 福井駅の土産物店への卸は昨年比べて、2割増となっており、新幹線効果を感じている。(菓子製造) ➡
- 元請の業績が良く、今後も受注は一定見込まれる。(印刷・製本機械製造) ➡
- 新築着工件数はそれほど増えている印象はないが、リフォーム工事は増加傾向にある。(防水工事) ➡
- 業界全体では新築着工件数の減少はあるが、自社はその影響はあまりなく、例年通りの受注だった。(塗装工事) ➡
- 自社商品に対する官公庁の予算がつかなくなっている。(文房具卸売) ↘
- 物価高による買い控えが続いており、年明けまで動向が読めず、注意していく必要がある。(玩具・娯楽用品小売) ↘
- 昨年比受注が落ち込んでおり、新商品提案が遅れているが間に合わず、経営悪化が見込まれる。(織物卸売) ↘